

事務事業名 鉄の歴史村施設管理運営事業		所属部 吉田総合センター	所属課 自治振興課	
総合計画体系	政策名 (IV)ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	所属G 自治振興グループ	課長名 河角郁夫	
	施策名 (32)地域文化の振興	担当者名 田浪文雄	電話番号 0854-74-0211 (内線) 4412	
	目的 対 象 市民 意 図 文化芸術を普及・振興し、地域文化(地域の伝統文化・歴史遺産)を次世代に伝える。	予算科目 会計 款 大 事 業 大 事 業 名 0 1 3 5 0 1 項 目 中 事 業 中 事 業 名 0 5 2 0 1 5	観光施設管理事業 鉄の歴史村施設管理事業	
	基本事業名 (096)地域文化の保存継承			
目的 対 象 市民 意 図 地域文化を次世代に伝える。				

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
・指定管理業務 (「郷土文化保存伝習施設」「鉄の未来科学館」「菅谷たたら山内及び周辺施設」「地域特産品処理加工施設」の4施設)
・施設修繕
・土地賃貸借契約
・管理委託業務

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	27年度実績(27年度に行った主な活動) 指定管理業務、施設修繕、借地料支払、貯水槽清掃委託、水質検査	28年度計画(28年度に計画する主な活動) 指定管理業務、施設修繕、借地料支払、貯水槽清掃委託、水質検査				
	平成28年度からは施設設置管理条例に即して①菅谷たたら山内管理事業、②吉田町郷土文化保存伝習施設管理事業、③鉄の未来科学館管理事業、④地域特産品処理加工施設管理事業の4事業として取り扱う。この他、土地の賃貸借と維持管理直営事業は、市有施設管理事業で取り扱う。					
	② 活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	ア 指定管理施設運営に関する協議回数	回	10	12	12	12
	イ 施設修繕箇所数	箇所	7	4	4	7
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	市民施設利用者 指定管理者		ア 雲南市人口	人	40,055	39,472	38,990
		イ 指定管理団体	団体	1	1	1	1
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	施設利用者を増加させ、たたら製鉄等に対する市民の理解向上と交流人口拡大及び地域文化・歴史の継承を目指す。鉄の歴史村関連施設を市の重要な観光文化資源として位置づけて適切に維持管理していく。	ア 施設入館者数	人	10,252	8,536	17,355	20,000
		イ					
		ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (27年度決算)		② コストの推移		単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)
需用費(消耗品費)	51千円	事業費内訳	国庫支出金	千円				
需用費(施設修繕費)	945千円		県支出金	千円				
役務費(手数料)	96千円		地方債	千円				
委託料(指定管理料)	21,806千円		その他	千円				
委託料(維持管理委託料)	141千円		一般財源	千円	39,513	24,313	23,217	22,557
使用料及び賃借料(用地借上料)	178千円	事業費計(A)	千円	39,513	24,313	23,217	22,557	
計	23,217千円	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	
			延べ業務時間	時間	200	200	200	
			人件費計(B)	千円	779	778	783	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	40,292	25,091	24,000	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・平成24年度から国指定文化財「菅谷たたら山内」保存修理工事開始。 ・平成25年度「木の国文化館」を解体撤去。 ・各施設老朽化が顕著であり修繕・改修対応を要す。 ・田部家から市へ「菅谷高殿」施設の寄贈。 ・平成26年度 菅谷高殿 施設修繕完了。 ・平成28年度 『出雲國たたら風土記』日本遺産認定見込み。	・実績や市方針に基づき指定管理料の適正化・効率化を図った。 ・平成26年度指定管理料の見直しを行い、平成27年度から運用した。	・文化財の保存修繕を通じて市民の関心が高まっている。 ・施設老朽化による修繕要望は増加。 ・尾道松江線の全線開通により、観光振興の視点から事業充実への期待が市民の間で一層高まっている。 ・平成27年度にJRの豪華寝台列車「瑞風」の、立ち寄り観光地に菅谷たたら山内が選ばれ、また、平成28年度の日本遺産認定により観光地としての魅力向上に向けた施設の利便性、機能の充実が望まれている。

事務事業名	鉄の歴史村施設管理運営事業	所属部	吉田総合センター	所属課	自治振興課
-------	---------------	-----	----------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由 菅谷たたら山内は貴重な文化遺産であり、保存修理に伴い、今後、来訪者の増加が見込まれる。地域資源としてさらに磨きをかけることで、雲南市の交流人口拡大や特色あるまちづくりに寄与する。そのためには、各施設の機能拡充や関係団体との連携強化が必要。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
D 公平性	<input type="checkbox"/> 影響無	理由 地域文化やたたら製鉄に関する歴史遺産を展示公開している観光施設であり、政策に直結している。施設と関連する事業は雲南市ブランドとしての情報発信や交流人口の拡大、地域文化振興及びふるさと学習等に寄与している。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	理由 当地ならではの地勢、歴史、文化等を背景とした施設管理運営、施設を活用した自主事業が展開されている。	
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる (具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 指定管理料については適正な事業費であり削減は困難。施設修繕については、老朽化に伴う修繕箇所、修繕費も増加しており、同事業費の増加が見込まれる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
C 効率性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 指定管理団体との協議や、文化財施設に関する教育委員会、関係団体、個人(土地賃貸借契約)との調整も必要であり、一定の業務時間は必要。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由 指定管理等を通じて、市内外の住民、及び関連する団体、組織等を対象とした幅広い事業が展開されており、公平性は適切である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価の 総括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 施設の経年変化や老朽化への対応は、破損や影響が顕著なものから優先順位を付け、対応している。今後も指定管理者と行政が連携をして、共通の認識により対応することが重要。施設に関する利活用策については、より一層の関係者・団体等連携の下、進展を図る必要がある。
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
		C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
		D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上	●																			
	維持		×																		
	低下	×	×																		
<p>現在、国指定文化財である菅谷たたら山内への関心は高まっている。平成26年度には、菅谷たたら山内の最重要施設である、菅谷高殿の保存修理工事が完了。さらに、高速道路尾道松江線全線開通、今後の映画「たたら侍」の公開、トワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り等により、観光地としてもその魅力と知名度が一層向上し、集客の大幅な増加が予想される。</p> <p>市は、引き続き施設の機能維持に努め、指定管理者は、各種団体や住民団体等との連携強化により効果的な情報発信や各施設の展示内容・イベントの充実を図る必要がある。</p>		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			